



畜産

2021年度新規採用職員インタビュー

「畜産の未来を技術で支えるパイオニア」

所属

農業総合センター

畜産研究所

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 現在の私の仕事は、畜産研究所で乳牛に関する試験研究をすることや、所内の乳牛を管理することです。試験研究の内容は、大規模酪農家の労働力の負担軽減技術の開発や、牛の重大な病気である乳房炎の新しいワクチンの実証試験を行っています。

実際に畜産農家の方と関わることはまだ少ないですが、今後は現場目線で役立つ技術を開発し、それを普及させることにより、生産現場に貢献したいと考えています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 畜産業は動物を相手にするため、多くの労働力が必要です。そのため、ICT・AIを活用した飼養管理技術を開発、普及させることで、より働きやすい環境を作りたいと思っています。

畜産職は、大きく分けて行政、普及、研究、教育の4つの仕事があります。現在は研究の業務を行っていますが、今後は普及の業務にも携わりたいと考えています。まずは、現在行っている畜産研究所の仕事をしっかり行い、酪農に関する技術、知識を深め、普及業務の担当になった際には、今の仕事で得た経験や知識を活かし、現場のニーズを解決できるような普及員になりたいです。



↑ 検体を採取している様子

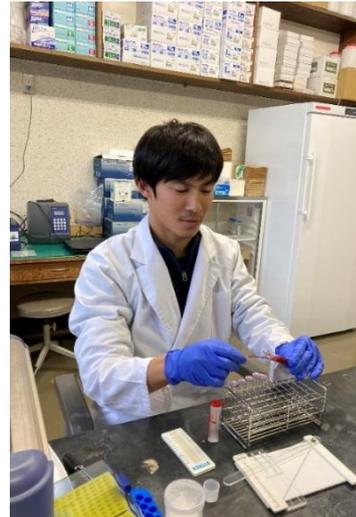


Q. 県職員を志望した理由を教えてください。

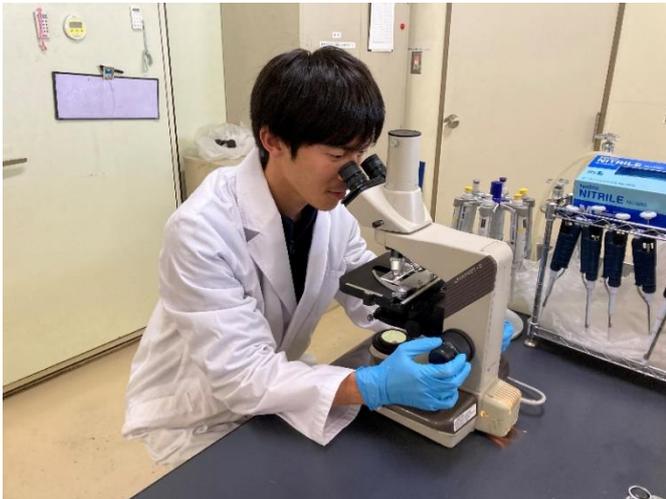
A. 大学院まで畜産を学び、卒業後は一旦、県外の民間企業に就職しました。しかし、愛着のある福島県で働きたいという思いが強くなり、また大学院まで6年間学んだ畜産の知識を活かして仕事をしたいと考えたことから、福島県職員の畜産職を志望しました。

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「旅行」「いきものがかり」「水族館」「畜産」「元車掌」



↑血液検査の様子



↑細菌検査の様子



↑子牛への哺乳の様子

Q. 「畜産」について教えてください。

A. 大学院まで計6年間、畜産を学んでいました。大学では主にヒツジと乳牛について学び、これらの知識は、現在所内で飼っている乳牛、ヤギなど様々な家畜の飼養管理、繁殖管理などの業務に役立っています。

Q. 「旅行」について教えてください。

A. 旅行先の地元の方や、現地の食べ物に触れることで新しい発見があり、いい刺激を受けています。特に北海道と沖縄は、たくさんの魅力があり、何度も訪れています。最近では、温泉や美味しい食べ物などの県内の魅力について改めて実感しています。